

一中だより

令和7年6月2日

第3号



作成者：荒川区立第一中学校長 小柴 憲一

授業が分かるようになったら学校は楽しい ～スタディサプリの活用～

何が楽しみで学校に来るかは子どもによって異なるでしょう。

友達と話すこと、給食を食べること、部活をやること、運動会練習に参加することなど、学校には楽しいことがたくさんあります。

しかし、学校で過ごす最も長い時間は授業です。

「勉強が好き」という子どもはほとんどいないと思いますが、「授業が分かる」というのは好き嫌いとは別問題で重要なことです。なぜなら、学校で過ごす多くの時間を「分かる」という充実感をもって過ごすわけですから。

授業中の子どもたちの様子を見てまわっていると、目がかがやせながら授業者を見たり教科書を見たり電子黒板を見たりして、ノートに一生懸命メモしている子どもがいます。また、グループで討議をしているとき、相手に自分の考えを伝えようと適した言葉を必死に探しながら話している子どもがいます。そのような子どもたちを見てみると、この時間を充実した気分で過ごしているんだなあと感じます。

逆に、机に伏して授業に参加できていない子どもや、机に伏していなくても窓の外を見ていて心ここにあらずの状況で、ただ一人何をする時なのかとも理解できずに時間を過ごしている子どももいます。そのような子どもを見ると、つらい時間を過ごしているんだろうなと気の毒な気持ちになってしまうことがあります。

授業の内容が100%理解できなくても、随所に理解できる箇所があり、理解できた内容をつなぎ合わせて、この時間は「これができるようになればいいんだ」「これが分かるようになればいいんだ」と食いついていくだけでも、休み時間の友達との会話はより一層楽しくなるし、給食も一段とおいしく感じるし、部活も晴れ晴れとした気分で活動できるのだと私は思います。

3年生は受験に向けて、懸命に勉強し始めていますが、「1・2年生の時にもっとちゃんとやっておけばよかった」と後悔している子どももいるのではないのでしょうか。

ということは、1・2年生の皆さんは、一日一日の授業一つずつが来年・再来年につながる重要な学習だということになるのです。

「学習は積み上げ」とも言います。一朝一夕に成果が表れることはあまりなく、積み上げてきた結果が成果として現れることが多いのです。

特に2年生は、学校生活にも慣れ、部活動や生徒会活動などに関心が向く反面、学習がおろそかになる恐れがあるとも言われることがあります。少なくとも、一時間一時間の授業が「分かる」経験をしながら学校生活を送ってほしいと思います。

そのためにも欠かせないのが、家庭学習なのです。

タブレットが新しくなり、個人の責任で学校と家庭の間を持ち歩くようになりました。使い方のルールも生徒会本部役員とも協議をして決めました。そのタブレットの機能に「スタディサプリー」という自主学習用のアプリがあります。

「分かった」という授業のあった日には、スタディサブリで家庭学習による定着を目指してほしいと思います。

また、「難しかった」「分からなかった」という授業のあった日には、スタディサブリで学び直しをし「何を難しいと思っていたのか」「何が分からなかったのか」を自分で分析するようにしてほしいと思います。

各ご家庭でも、家庭学習を子ども任せにせず、関心をもって学習状況について会話をするようにしていただき、「授業が分かるようになったから学校が楽しくなった」と思える子どもに育ててほしいと思います。

中学校運動会の意義

中学校の運動会は、多くが学級対抗形式をとっており本校もその1つです。

この形式にはいくつかのメリットがあります。

1つは、各学級生徒会の結束力を高めることにあります。

選手決めや練習の間には子ども同士の間でもめることもあります、「いい成績を収めること」という同一の目的意識があるからこそめめるわけであり、議論したり討議したりすること自体にも意味はあるのです。また、すべての子どもが運動を得意としているわけではありません。中学生になればそれは分かることであり、だからこそミスを責めたりせず、カバーしようと努力するのです。これも「いい成績を収めること」という同一の目的意識があるからなのです。

結果的に期待した通りの成績を収めれば歓喜して躍り上がるでしょうが、逆に期待した通りの成績を収められなかったといしても、互いの健闘をたたえ合い「やるだけのことはやった」と満足感を味わうことができるのです。

2つ目は、学年生徒会の集団意識を高めることです。

競技では、他の学級とは敵同士でも、学年の演技では敵味方関係なく学年全員で気持ちを合わせて表現し、観衆に感動を与えることを目的とします。つまり、そこに学年生徒会共通の目的意識が生まれるのです。そこには運動の得意不得意や男女の区別はないのです。

この学級生徒会内での共通の目的意識と学年生徒会内の共通の目的意識が融合し、子どもたちは閉会式で達成感を味わうことができるのです。

特に、これら2つの目的意識を心深く刻み込むことができ、バランスよく切り替えられるのが3年生なのです。ですから、運動会の3年生の姿は勇壮なのです。

最後のメリットは、そのような3年生の姿を1・2年生が見て、自分たちが学級生徒会や学年生徒会で取り組んできたことを振り返り、3年生にあこがれることなのです。1・2年生の中には、成績にかかわらず3年生の様子を見て、「もっと学級内の結束力を高めればよかった」「あんな達成感を味わいたかった」と後悔をもつ子どももいるでしょう。

でも、いいのです。それが次の運動会へのばねになるのですから。

一中の運動会は、こうやって運動会をやる意義を継承していつているのです。

お知らせ

- 春季大会バレーボール女子の部において、以下の成績を収めました。
第2位
- 体育館外壁工事に伴い、7月22日(火)・23(水)、8月28日(木)・29日(金)の夏季水泳教室は中止となりました。